

平成 19 年 度 教 育 研 究 業 績 書

氏名 尾上 正人

最終学歴	東京大学大学院人文社会系研究科第一種博士課程修了
取得学位	博士（社会学）
所属学会	日本社会学会、経済社会学会、「宗教と社会」学会
現在の専門分野	産業社会学、経済社会学、宗教社会学、理論社会学
研究課題	予定説の思想史的位置づけとマックス・ヴェーバーにおけるその取り扱いについての研究、レヴィ・ストロースにおける一神教観・多神教観の研究、フランク・ナイトにおけるリスク概念の経済社会学的再評価の研究

【教育上の特記事項】

4年次生の演習（社会学演習・ ）における初めての試みとして、ビジネスプランの実験を兼ねて学園祭（青垣祭）に出店した。ジュースバーと足湯の2つの事業部を設け、それぞれに収益の上がりそうな、しかも他店とは差別化したビジネスモデルの構想を、学生とともに行ない、店舗経営を実践してみた。

【学内活動】（学内職歴を含む）

全学教務委員、社会調査士・専門社会調査士の連絡責任者、FD委員会委員

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学術論文） 「『リスク社会』とフランク・ナイト 確率論とケインズを導きの糸として」	単著	2007年9月22日	『経済社会学会年報』第29号，175-84頁	
（学会発表） 「レヴィ・ストロースと一神教 - 西洋社会の神話なき『構造』 - 」		2007年6月9日	「宗教と社会」学会第15回学術大会，於駒澤大学	